

井川・梅ヶ島周辺のまちづくり

この地区で目指す姿

豊かな自然と歴史文化を守り、学びと交流を通じて地域の魅力を未来につなぐまち

実現に向けた主な取組

1. 梅ヶ島ワイン生産地化計画の推進

- ・ ワイン生産地として基盤整備を行い、地域ブランドを形成します。

2. 南アルプスユネスコエコパークミュージアム整備

- ・ 井川地域に学びや交流の拠点を整備し、南アルプスや井川地域に関わる人を増やし、活動の輪を広げます。

3. 南アルプスユネスコエコパークミュージアムを拠点とした自然体験・食体験の提供

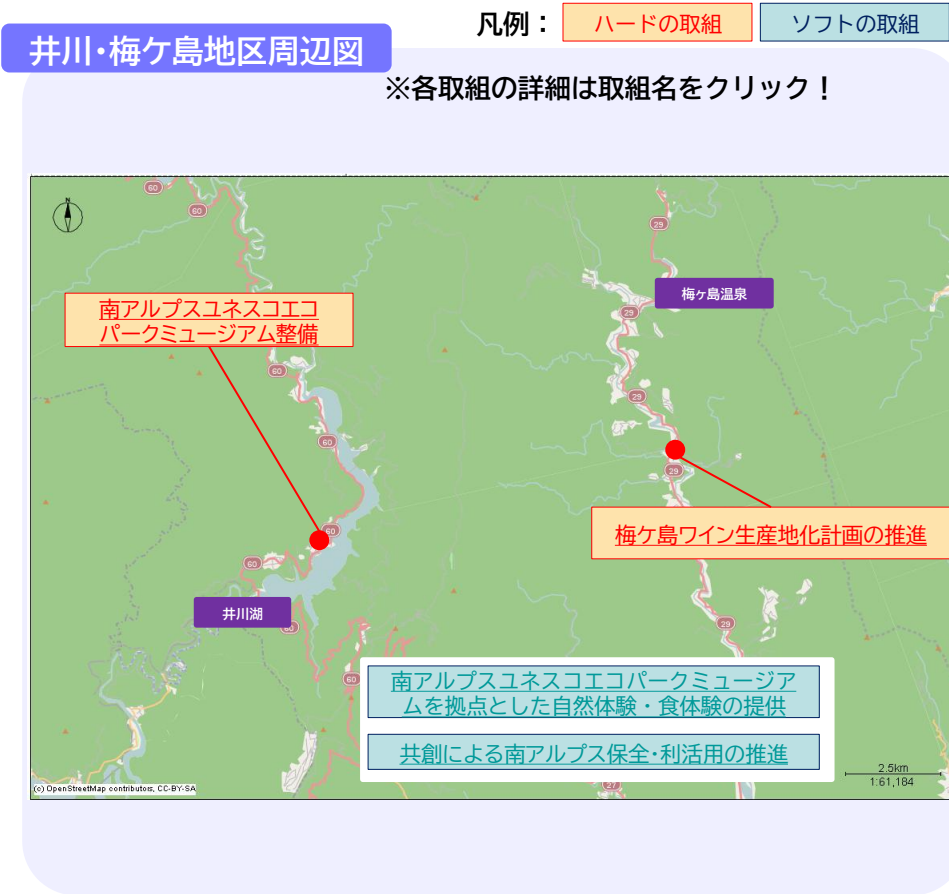
- ・ ミュージアムを拠点に体験コンテンツを提供し、井川地域や南アルプスの魅力を発信します。

4. 共創による南アルプス保全・利活用の推進

- ・ 民間事業者等と連携した植樹活動や防鹿柵設置、情報発信を行い、南アルプスの保全と利活用を進めます。

こんなことが実現されます

- 梅ヶ島でブドウの栽培からワイン醸造までが行われ、地域ブランドが形成されることで、新たな産業や人の流れが生まれ、地域の活性化につながる。
- 自然体験や食体験を通じて、井川ならではの暮らしや文化、豊かな自然を楽しむ機会が広がり、地域を訪れ、関わる人が増える。
- 多様な主体が連携して、南アルプスの自然を守りながら、その魅力を未来に引き継ぐ。



梅ヶ島ワイン生産地化計画の推進

取組概要

新たな産業の創出で、新しい仕事や起業・学びの機会を得て、地域を自分たちで盛り上げられるようになる。

- 梅ヶ島地区は、豊かな自然環境や温泉・歴史・文化など多くの地域資源を有している一方で、人口減少や高齢化の進行により、地域の担い手不足や産業の縮小が課題となっています。
- 圃場造成や農地集積、鳥獣害対策、気象観測環境など基盤整備を行います。
- ワイン産業による地元での雇用創出や飲食・観光の活性化、地域ブランドの向上を通じて、新たな収入機会や外食・レジャーの充実、地域の誇りと交流の場をもたらし、暮らしの質を高めます。



圃場イメージ

今後の予定

2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年
各種データ収集などの調査研究の開始									
民間事業者の公募									
	ブドウ植栽の開始								
	民間事業者によるワイナリー整備								
			試験醸造の開始・初出荷を目指す						
				梅ヶ島産ブドウによるワイン醸造へ移行					
					将来的な事業展開を目指す				

南アルプスユネスコエコパークミュージアム整備

取組概要

南アルプスや井川地域の自然環境や歴史文化を発信・継承する拠点として整備することで、壮大な自然を体感し、楽しく学びながら保全活動や地域活動に参加できるようにする。

- ユネスコエコパークに登録されている南アルプスと井川地域は、貴重な生態系や自然環境、独自の生活文化を有している一方で、高山植物の減少や地域文化の衰退が課題となっています。
- 南アルプスの玄関口である井川地域に、学びや交流の拠点となる施設を整備し、イベント開催など民間や地域住民による利活用を進めます。
- 環境保全活動や地域活性化に資する取組に参加できる機会を提供することで、南アルプスや井川地域に関わる人を増やし、活動の輪を広げます。



南アルプスユネスコエコパークミュージアム

今後の予定

2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年
2025年7月～供用開始									
コンテンツ 造成	コンテンツ(自然体験・食体験)提供								
	維持管理								

⑧環境・森林

目指すべき未来像

人が自然とともに生き地域の暮らしや文化を守りながら魅力を育み、脱炭素社会の実現と経済の活性化が両立した持続可能なまち

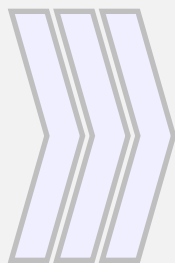
現状と課題

・温暖化による災害の激甚化が進む中、2050年カーボンニュートラルは、従来型の取組では達成できません。カーボンニュートラルの実現には、徹底した省エネや再生可能エネルギーの普及、資源循環を革新的技術で加速することで環境と経済の両立を図るグリーントランスフォーメーションが不可欠です。

・人口減少が進む中山間地「オクシズ」では、自然と共生する暮らしや文化が残る一方、担い手不足や高齢化による地域の活力低下が課題です。自然や文化などの地域資源が「オクシズの魅力」として広く認知され、地域資源を活かした暮らしを守りながら、人が集まる仕組みづくりが必要です。

・市域の約76%を占める森林では荒廃が進み、災害リスクの増大に加え、生態系の劣化、水源涵養機能の低下、土壌流出、地域経済や景観への悪影響など、複数の問題が相互に関連し、深刻化するおそれがあります。木材供給に加え、山地災害防止や水源涵養など公益的機能を重視した管理が求められます。

課題解決のための
具体的な取組



プラスチックごみ分別回収の 全面实施

★取組概要

プラスチックごみを分別回収し、資源として活用することで、焼却ごみを減らし、プラスチックを製品等の原料として循環させます。市民が分別することで、身近なプラスチックをごみとして捨てるのではなく、資源として次の製品につなげられる仕組みを構築する。



プラスチックごみの分別



ごみ回収の様子

共創による南アルプス保全・利 活用の推進

★取組概要

井川・梅ヶ島周辺

市民、地域団体、民間事業者と連携した保全プログラム（植樹活動、防鹿柵設置等）や情報発信を実施することで共働の輪を広げ、南アルプスの豊かな自然環境を将来へ守り継ぐ。



植樹活動



防鹿柵設置

南アルプスユネスコエコパーク ミュージアムを拠点とした自然体 験・食体験の提供

★取組概要

井川・梅ヶ島周辺

ミュージアムを拠点に南アルプスや井川地域の魅力を体験できるコンテンツを造成することで、地域内外の交流を促進するとともに、地域経済の好循環を生み出す。



ミュージアム外観



蕎麦打ち体験